

Green-GO MCX *ラック&テーブルステーション



Green-GOの32チャンネル MCX *ラックおよびテーブルステーションは、コンパクトな設計により、固定ワークステーションに簡単に統合できます。これにより、ユーザーは最大32のチャンネルと多数の機能に直接アクセスできます。3つの高コントラストカラータッチスクリーンと20個のバックライト付きボタンにより、ユーザーは音声、通話、信号のコンパクトで正確な操作を行うことができます。

豊富な接続オプションにより、多くの可能性が提供されます。ユーザーは、内蔵 2ワットスピーカーと外部マイクを介して、またはヘッドセットを介して通信できます。さらにノイズの多い環境では、ライン出力接続を介して外部スピーカーを操作することもできます。外部オーディオ信号は、ラインイン接続を介して、たとえば、プログラムトーンなどのグループすべての Green-GO 参加者が簡単に利用できます。GPIO 接続により、2 つの入力と出力を介して Green-GO エンジンすべての通信信号（ライト、コールサイン、音声）への外部アクセスが可能になります。

概観

納入品目

Green-GO MCX *ラック&テーブルステーションは、常に次のパッケージ内容で提供されます。

納入品目

1 x Green-GO MCX *ラックまたはテーブルステーション

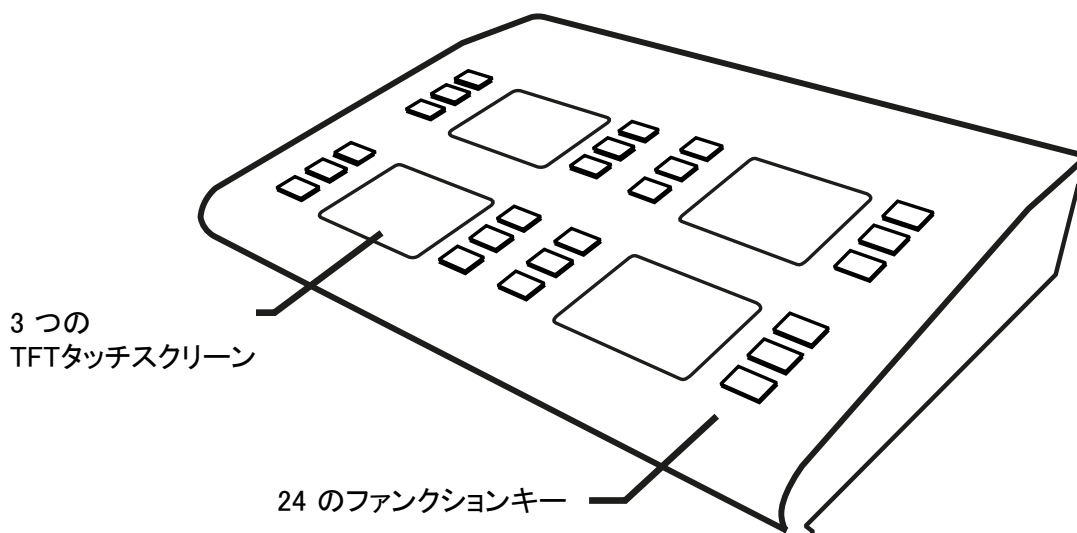
1x クイックスタートガイド

1Uラックタイプ

MCX32 チャンネル 1U ラックステーション キャスト(R)

MCX32 チャンネルテーブルステーション キャスト(R)

正面図



• 3 つの TFT タッチスクリーン

チャンネルまたは機能のステータス情報は、ユーザーの 3 つの高コントラスト TFT タッチスクリーン上に明確かつコンパクトに表示されます。タッチスクリーンにより、Green-GO エンジンのさまざまな動作モードの機能に直接アクセスできます。各タッチスクリーンは、合計 6 つのタッチスクリーンセクションに分かれています。

• 18 個のファンクションキー

RGB LED が付いたバックライト付きの 18 個のファンクションキーにより、リンクされた機能に安全にアクセスできます。

• スピーカー

デバイスには 2 ワットのスピーカーが内蔵されています。

- XLR3F マイコネクター

どのマイクも、フロントの XLR3F マイコネクターに直接接続できます。

- セットアップファンクションキー

セットアップファンクションキーを使用して、セットアップメニューにアクセスできます。

18 個のファンクションキーのいずれかと組み合わせて、対応するチャンネルまたは機能設定にすばやく簡単にアクセスできます。

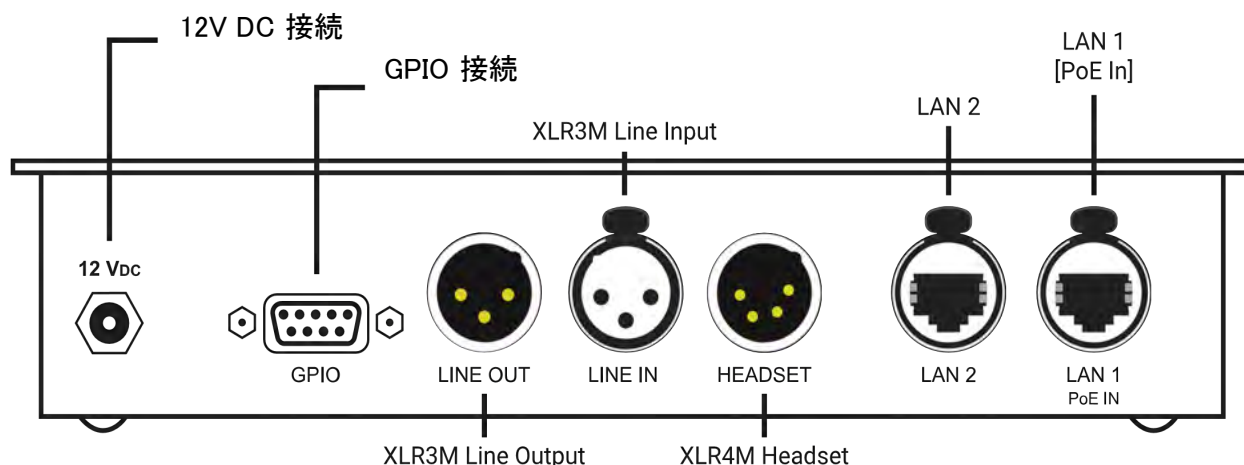
- シフト/レベルファンクションキー

シフトファンクションキーを使用して、2 番目の操作レベルを呼び出すことができます。18 個のファンクションキーのいずれかと組み合わせて、対応するチャンネルまたは機能の割り当てをすばやく簡単に調整できます。

- クリックエンコーダー

クリックエンコーダーは、**セットアップメニュー**をナビゲートしたり、特定の機能を制御できます。

背面図



- 12 VDC 接続

デバイスは 12V DC 接続を介して、オプションで利用可能な外部 12V DC 電源アダプターで給電できます。

- GPIO 接続

GPIO 接続は、D-Sub 9 コネクターを介して 2 つの入力と出力を提供します。これらのコネクターは、外部リレーを介して Green-GO エンジンのすべての機能とリンク可能です。

- XLR3M ライン出力

XLR3M ライン出力により、任意の Green-GO グループからオーディオ信号を派生させることができます。また、ライン出力を介して、デバイスにリンクされているユーザーの合算を出力することも可能です。

• XLR3F ライン入力

XLR3F ライン入力は、オーディオ信号を Green-GO グループに供給し、Green-GO システム内の任意の数のユーザーに利用可能にすることができます。また、ライン入力は、ユーザーのバランス入力として使用することもできます。

• XLR4M ヘッドセット

どのヘッドセットも XLR4M コネクタに接続できます。統合されたアンプは 32~600Ω のインピーダンスに対応しています。ノイズの多い環境ではインピーダンスが最高の結果をもたらします。

どのヘッドセットが推奨されますか？

- Bose™ SoundComm® B30 Headsets (82 - 164Ω) bei cast®
- Beyerdynamic 290 / 280 (80Ω) bei cast®
- Shure BRH 31 (220Ω) bei cast®
- Shure BRH 440 / 441 (300Ω) bei cast®

• LAN 1

Green-GO ネットワークへのデータ接続用のスイッチド 10/100Mbps RJ45 ネットワークポート

LAN 1 ネットワークポートのデバイスには、Power over Ethernet (IEEE 802.3af)の電源が供給されま
す。

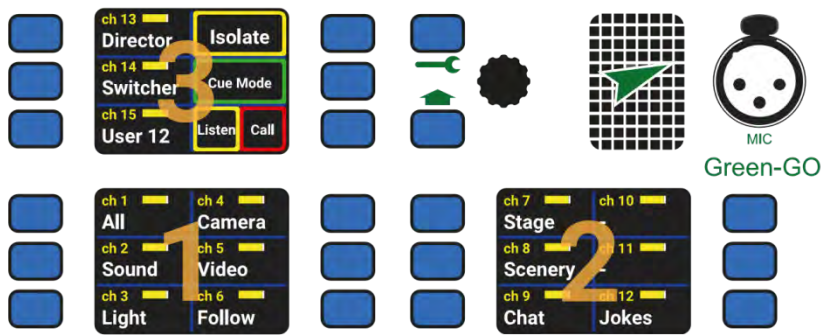
• LAN2

Green-GO ネットワークへのデータ接続用の 10/100Mbps RJ45 ネットワークポート

LAN 2 ネットワークポートを使用して、マスター接続モードで可能な拡張機能(MCX*EXT)を接
続することができます。

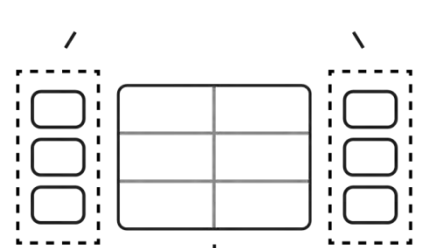
ユーザーインターフェース

Green-GO MCX*ラック&テーブルステーションのユーザーインターフェースは完全に柔軟で、各ユーザーのニーズに合わせて調整することができます。チャンネルと機能は、ユーザーインターフェース上で必要に応じて分配することができます。以下では、納品時のレイアウトについて説明します。



出荷時の MCXD-Station のユーザーインターフェース

チャンネルファンクションキー



各チャンネルのファンクションキーのセクションを備えた TFT タッチスクリーン

・タッチスクリーン

タッチパネルは、それぞれ 6 つのセクションに分かれています。各セクションは、直接隣接するファンクションキーにリンクしています。タッチスクリーン部をタッチすると、アクティブな通信モードの機能がトリガーされます。






納入時には、Green-GO MCXD テーブルステーションの下 2 つのディスプレイは、チャンネル 1～12 に接続されます。上段のディスプレイでは、チャンネル 13～15 と 3 つの機能 [#functions] Isolate , Cue Mode , Listen/Call Mode にアクセスすることができます。

ラックステーション「Green-GO MCX」では、リンクされたユーザーのチャンネル 1～15 と 3 つの機能 [#functions]が左から右に配置されています。

・ファンクションキー

機能キー 20 個は、それぞれのリンクされた機能をアクティブにしたり、それぞれのリンクされたチャンネルへの音声接続を行います。さらに、バックライト付きファンクションキーは、現在のチャンネルまたは機能の状態を色で表示します。

色とチャンネルのステータス

-  青:チャンネルまたは機能がアクティブではありません。
-  緑:チャンネルはスピーチのために開放されています。
-  黄:チャンネルで音声信号を受信しています。
-  赤:チャンネルで呼び出しを受信しています。
-  赤:(点滅)チャンネルでアラーム信号を受信または送信しています。

使用方法

チャンネルにリンクしている場合、ファンクションキーを押すと、常に音声でのコミュニケーションが起動されます。この動作は、設定で調整することができます。そのための詳細な説明については、[通話](#)をお読みください。

- ・Green-GO コントロールソフトウェアで UI-Provle を作成して、個々のユーザーとリンクすることができます。

詳細情報

機能とその動作についての詳細な情報は、[機能\[#functions\]](#) を参照してください。

使用例

セットアップメニュー

セットアップメニュー[#the-setup-menu] へは、Green-GO MCX*

Rack-&デスクトップステーション上で専用のセットアップファンクションキーによって簡単にアクセスできます。
クリックエンコーダーは、メニューをナビゲートしたり、メニュー項目を確認するために使用します。



機能

Green-GO MCX* Rack & Desktop Station の機能により、さまざまな通信モードや操作モードにアクセスすることができます。

各ファンクションキーとタッチパネル部は機能に連動しています。これは、任意に設定できる[#customize-function-assignment]ので、ユーザーインターフェース全体を自分好みにカスタマイズすることができます。

利用可能な機能

音量制御機能


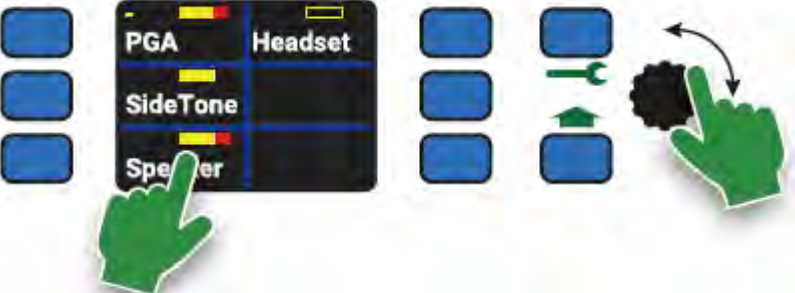


ファームウェアバージョン 4a61 を搭載した Green-GO MCX* Rack & Desktop Station では、以下のボリュームコントロール機能を利用できます。

利用方法

これらの機能は、一般的な音量調整に使用されます。クリックエンコーダーにより、対応するタッチスクリーンセクションまたはファンクションキーと一緒に、各機能の音量を調整することができます。

追加情報

これらの機能の詳細については、MCX *:プログラムサウンド[#program sound]、MCX *:リスニング[#listen]、および概要:機能の章を参照してください。







機能説明	例
<p>プログラムオーディオ この機能は、プログラムサウンドのパッシブチャンネルの音量を調整するために使用することができます。 セットアップ機能キーとの組み合わせでプログラムサウンドの設定メニューも呼び出すことができます。</p>	
<p>スピーカの音量 この機能を使用して、内蔵スピーカの音量を調整することができます。</p>	
<p>ヘッドセットの音量 この機能を使用して、接続したヘッドセットの音量を調整することができます。</p>	
<p>サイドトーンの音量 この機能を使用して、ローカルのサイドトーンの音量を調整することができます。</p>	

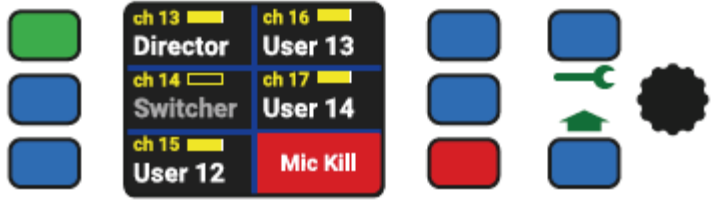
コールとコールサイン機能

ファームウェアバージョン 4a61 を搭載した Green-GO MCX*ラック & デスクトップステーションでは、コールおよびコールサインに関する以下の機能が利用可能です。

詳細情報

これらの機能の詳細については、[MCX*:Speaking and listening](#)、[MCX*:コールサイン](#)、[概観:機能](#)の章を参照してください。

機能説明	例
<p>リッスン/コールモード この機能は、コールとコールサインの通信モードを切り替えます。 起動された機能に応じて、ファンクションキーは黄色または赤でバックライトされます。</p>	
<p>リッスンモード この機能は呼出時の通信モードを切り替えます。初期設定では、タッチパネル部を押すことでチャンネル音量をミュートしたり、クリックエンコーダーの回転と組み合わせて変更したりすることができます。機能がアクティブなときは、ファンクションキーが赤でバックライトされます。</p>	
<p>コールモード この機能はコールサインの通信モードを切り替えます。初期設定では、タッチスクリーン部を押すことでコールサインが発動します。機能がアクティブな場合は、ファンクションキーのバックライトが赤色になります。</p>	
<p>アンサー この機能を使用すると、対応するファンクションキーを1回押すだけで、コールサインや通話などのすべての着信通信信号に応答できます。機能がアクティブになると、アクティブなチャンネルのファンクションキーが緑色に点灯します。</p>	
<p>アイソレート この機能により、会話の相手をよりよく理解するために、他のコミュニケーションから個人を分離することができます。アクティブな場合、この機能は、ユーザーが現在アクティブに話しているわけではないすべてのチャンネルをミュートします(青色のステータス)。</p>	
<p>マイクキル この機能を使用すると、ユーザーのアクティブなオーディオ入力を一時的にミュートすることができます。機能の対応するファンクションキーが押されている限り、ユーザーのアクティブな入力はミュートされます。機能がアクティブな場合、ファンクションキーのバックライトは赤く点灯します。</p>	



<p>マイクキルラッチ この機能を使うと、ファンクションキーを一度押すだけで、ユーザーのアクティブオーディオ入力を永続的にミュートにすることができます。機能がアクティブなときは、ファンクションキーが赤でバックライトされます。 ライトシグナルの機能 ファームウェアバージョン 4a61 の Green-GO MCX* ラック&デスクトップステーションでは、以下のライトサイン機能が利用できます。</p>	
--	--

キュー信号機能

Green-GO MCX *ラックおよびテーブルステーションでは、ファームウェアバージョン 4a61 はキュー信号に対して次の機能を提供します。

詳細情報

これらの機能の詳細は、MCX*の章:ライトサインに記載されています。

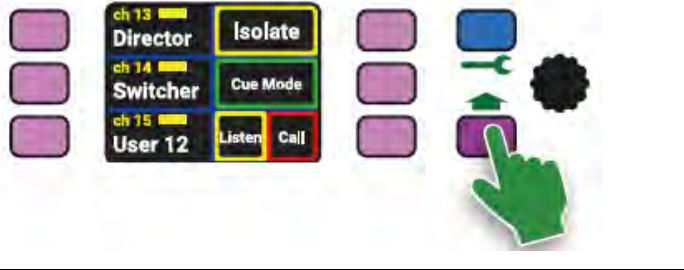
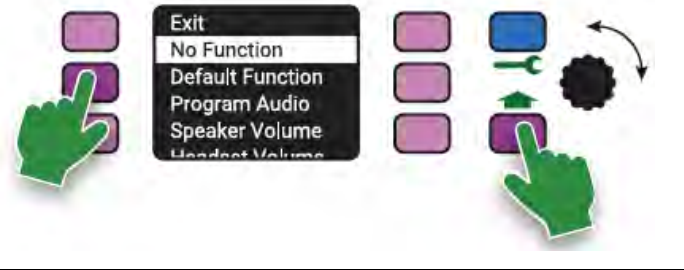
機能説明	例
<p>キューモード この機能は、キュー信号の通信モードをアクティブにします。このモードでは、キュー信号を送信できます。アクティブになると、ファンクションキーが緑色に点灯します。 デバイスがチャンネルでキュー信号を送信する場合、機能の動作が変わります。ファンクションキーまたはファンクションのタッチスクリーンセクションを押すと、すべてのアクティブなキュー信号がゴー信号になります。</p>	
<p>キューキャンセル この機能は、対応するタッチスクリーンセクションと組み合わせて、アクティブなキュー信号をキャンセルできます。</p>	

その他の機能

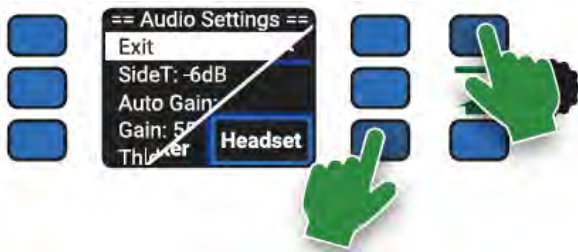
機能説明	例
<p>機能なし ファンクションキーとタッチスクリーンセクションには機能がありません。</p>	
<p>デフォルト機能 ファンクションキーとタッチスクリーンセクションは工場出荷時の設定にリセットされます。</p>	
<p>チャンネル 1~32 チャンネルは、タッチスクリーンセクションとファンクションキーを介して表示および操作します。</p>	
<p>オーディオソースの選択 この機能を使用すると、ユーザーはユーザーの2つのオーディオプロファイルを切り替えることができます。アクティブなプロファイルは、機能のタッチスクリーンセクションに表示されます。</p> <p>工場出荷時の設定では、両方のオーディオプロファイルは同じです！2番目のプロファイルに他の設定が割り当てられた後にのみ、この機能が確認できます。</p>	

機能の割り当て調整

使用可能な機能は 18 のファンクションキーのいずれかに割り当てることができるため、Green-GO MCX *ラックおよびテーブルステーションは、それぞれのユーザーのニーズに対応できます。

ステップ1	ステップ2
	
<p>新しい機能を割り当てるには、18 個のファンクションキーのバックライトがピンクに変わるまで、Shift ファンクションキーを押し続けます。</p>	<p>ここで、割り当てを変更するファンクションキーを押します。利用可能なすべての機能を備えた選択メニューが上部ディスプレイに表示されます。</p>

機能設定の調整



利用可能な機能の多くは、対応するオプションメニューに直接アクセスできます。これを行うには、セットアップファンクションキーに対応するファンクションキーと一緒に押す必要があります。次に、対応するオプションメニューがMCXステーションの上部ディスプレイに表示されます。

通話とリッスン (リッスンモード)

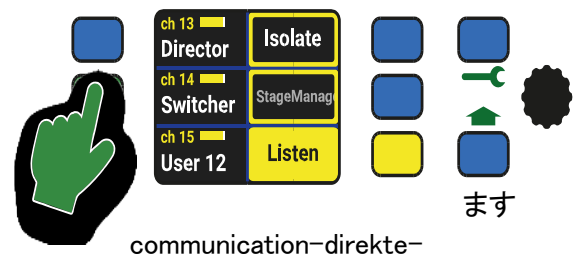
原則として、リッスンモードではオーディオ信号と音声信号を処理します。これは、**リッスン/コールモード**機能を使用して実現できます。

リッスンモードがアクティブな場合、機能の対応するフィールドが黄色で強調表示され、関連するファンクションキーが黄色に点灯します。

以下では、会話を行う方法と、チャンネルの音量を操作する方法について説明します。

通話

通話は常にチャンネルを介して**グループ (パーティーライン)**またはユーザーのいずれかに送信されます。(直接会話)



標準設定では、**ユーザー**のすべてのチャンネルがラッチ/モーメンタリー操作モードで設定され、それに応じてファンクションキーを短く押した場合(ラッチ)は持続的に、あるいはファンクションキーを押し続けた場合(モーメンタリー)は一時的に開かれます。

アプリケーションノート

ファンクションキーは、アクティブな通信モード(リッスン、コール、キュー)に関係なく、常にリンクされたチャンネルへの音声接続を開くようにデフォルトで設定されています。

この動作は、**セットアップメニュー**で調整できます。オプションを使用すると、ファンクションキーはアクティブな通信モードに従い、押したときに対応する信号を送信します。

セットアップメニュー → デバイスオプション → ChBtn

設定のヒント

チャンネルの1つの音声モードを設定する

設定メニュー → チャンネル割り当て → チャンネル ID → トーク。

ここで、動作を「モーメンタリー」、「ラッチ」、「ラッチ/モーメンタリー」、または「無効」に変更できます。

アンサー

この機能“アンサー”を使用すると、ボタンを押すだけで着信に応答できるので、便利で簡単です。この機能は、ユーザーが 2 番目のシフト側で通信を受信する場合、または多数の **MCX * EXT チャンネル拡張**が MCX *ラック&テーブルステーションに接続されている場合に特に役立ちます。

設定のヒント

アンサー機能を有効/無効にする

セットアップメニュー → オプション → アンサー

最後のオーディオ信号を受信した後のチャンネルアクティビティの継続時間

セットアップメニュー → オプション → アンサータイム

このオプションは、対応するファンクションキーがアクティブとして表示される時間を決定します。

ステップ1



ユーザーは(チャンネル13)と(チャンネル14)を受け取ります。

アンサー機能のファンクションキーが黄色にバックライトされ、タッチスクリーンセクションにはデバイスにリンクされたユーザーは表示されなくなりましたが、アンサーが表示されます。

ステップ2



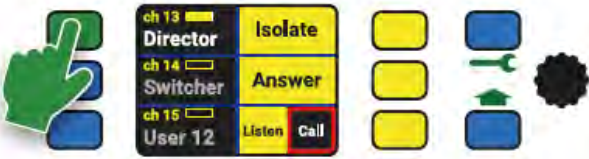



アンサー機能のファンクションキーを押すと、ユーザーは、通信信号(会話、コールサイン)が受信されるすべてのチャンネルへの音声接続を開きます。

アクティブなチャンネルのファンクションキーが緑色でバックライトされ、通話のためにチャンネルが開いています。

リッスン

Green-GO には、大規模システムでの着信通信を簡素化および構造化するためのさまざまな機能とオプションが付属しています。

機能の説明	例
<p>チャンネルボリューム</p> <p>リスンモードでは、対応するタッチスクリーンセクションとクリックエンコーダーを使用して、チャンネルの音量を簡単に変更できます。</p> <p>タッチスクリーンセクションの代わりにファンクションキーを使用することもできます。</p>	
<p>チャンネルをミュートにする</p> <p>リスンモードでは、対応するタッチスクリーンセクションをタップするだけで、チャンネルをミュートできます。</p>	
<p>テイソレート</p> <p>アイソレート機能は、すべてのアクティブな会話を現在の通信の残りのユーザーから分離します。有効にすると、現在話されていないすべてのチャンネルがミュートされます。</p>	
<p>トーク中のリスン</p> <p>これは、通話中にミュートされたチャンネルを再度アクティブにして、発信者の応答を聞くことができるオプションです。</p> <p>この機能は、セットアップメニューで設定できます。セットアップメニュー → オプション → リスン オントーク。</p>	

優先順位: 重要でない部分を隠す

各チャンネルは、チャンネルの割り当てメニューの 3 つの優先順位から設定できます: 高、標準、低。

チャンネルの優先度は、通信がミュートされるか、弱まるか、または通常の音量で送信されるかによって決定されます。優先順位の高いチャンネルで通信信号を受信するとすぐに、優先順位の低いチャンネルでのすべての通信が減衰されます。

Green-GO エンジンが優先度を処理する方法は、メニューで設定できます。

設定方法

チャンネルの優先度設定

セットアップメニュー→チャンネル割り当て→チャンネル ID→優先度

より高い優先度でダンピングを設定する

セットアップメニュー→オプション→Priority Dim

コールサイン (コールモード)

コールサインは、通話モードのどのチャンネルでも送受信できます。通話モードは、**リッスン** / **コールモード** または **コールモード** の機能を介して利用できます。呼び出しモードがアクティブの場合、機能の対応するフィールドが赤で強調表示され、関連するファンクションキーが赤く点灯します。

コールサインの受信は、アクティブな通信モードに関係なく、対応するファンクションキー上に表示されます。



Green-GO は 2 段階のコールサインをサポートしています。チャンネルのタッチスクリーンセクションを短く押すと、視覚的な信号のみが送信されます。長押しすると、アラームブザーと呼ばれる**ブザー**も送信されます。

アプリケーションノート

ファンクションキーは、アクティブな通信モード(**リッスン**、**コール**、**キュー**)に関係なく、常にリンクされたチャンネルへの音声接続を開くようにデフォルトで設定されています。

この動作は、**セットアップメニュー**→セットアップメニュー→デバイスオプション→ChBtn で調整できます。トーク/**コール**/キューオプションでは、ファンクションキーはアクティブな通信モードに従い、押したときに対応する信号を送信します。

設定方法

アラーム音の音量を設定する

セットアップメニュー→オプション→トーン

キュー信号 (キューモード)

キュー信号は、キューモードの **MCX** ***ラック**または**テーブルステーション**からのみチャンネルに送信できますが、すべてのデバイスで受信できます。

Green-GO エンジンのライト信号は、3 つのステージに分かれています。各

ステージには独自のシグナルがあります。

アテンション、ホールド、そしてゴー

キュー信号はオプションメニューで設定できます。

設定方法

ゴー信号の保持時間を設定する

セットアップメニュー→オプション→出力キュー時間

アラーム音の音量を設定する

セットアップメニュー→オプション→トーン

ライト信号受信の処理を設定する

セットアップメニュー→オプション→キューモード

オプション設定

ノーマル

キュー信号の受信には 3 つのレベルがあり、応答できます。

オートアンサー

キュー信号の受信はすぐに応答されます。キュー信号は事実上 2 段階のみです: ホールド & ゴー。

イグノア

キュー信号は受信されません。

キュー信号を受信する

キュー信号の受信は、ステーションのすべての通信モードで表示され、上部のタッチスクリーンにポップアップが表示されます。

アテンションシグナルを受信した場合、黄色の点滅セットアップまたはシフトファンクションキーで応答できます。キュー信号がホールド信号に変わり、受信者と送信者に赤色信号として表示されます。ゴー信号は、必要に応じて送信者によってトリガーされます。

設定方法

アラーム音の音量を設定する

セットアップメニュー→オプション→トーン

キュー信号の受信の処理を設定する

セットアップメニュー→オプション→キューモード

オプション設定

ノーマル

キュー信号の受信には 3 つのレベルがあり、応答できます。

オートアンサー

キュー信号の受信はすぐに応答されます。光信号は事実上 2 段階のみです: ホールド & ゴー。

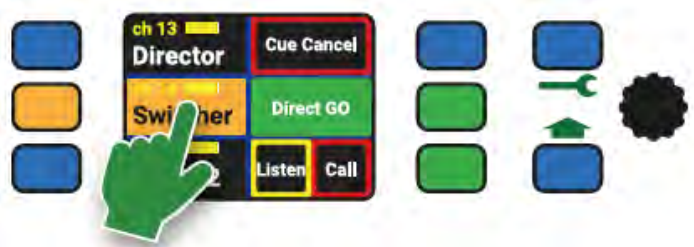
イグノア

キュー信号は受信されません。

キュー信号に応答する	キュー信号のホールドアンドゴー
	
<p>アテンション信号は、上部タッチスクリーンにポップアップで表示されます。アテンション信号は、セットアップまたはシフトファンクションキーで応答できます。</p>	<p>ホールド信号とゴー信号もポップアップで表示されません。このシグナルを送信したユーザーがシグナル名の下に表示されます。</p>

キュー信号を送る

標準設定では、信号は、チャンネルの対応するタッチスクリーンセクションをタップすることによってのみ送信されます。ファンクションキーは、デフォルト設定で常に音声接続を開きます。タッチスクリーンセクションを繰り返しタップすると、ゴー信号が送信されます。ゴー信号の保持時間は、オプションメニューで設定できます。



アプリケーションノート




ファンクションキーはデフォルトで設定されているため、アクティブな通信モード(リッスン、コール、キュー)に関係なく、リンクされたチャンネルへの音声接続が常に開かれます。

この動作は、**セットアップメニュー**→セットアップメニュー→デバイスオプション→ChBtn で調整できます。オプションを使用すると、ファンクションキーはアクティブな通信モードに従い、押したときに対応する信号を送信します。

設定方法

ゴー信号発信の保持時間を設定する

セットアップメニュー→オプション→出力キュー時間

機能説明	例
<p>キューキャンセル</p> <p>この機能で光信号を簡単にキャンセルできます。</p>	
<p>ダイレクトゴー</p> <p>ゴー信号をチャンネルに直接送信するには、機能キューモードのファンクションキーを希望のチャンネルと一緒に押す必要があります。</p> <p>MCX *ステーションは、ゴー信号を直接送信するようになりました。</p>	
<p>キュークリア</p> <p>この機能によれば、すべてのアクティブなゴー信号を終了させることができます。</p>	

MCX * EXT ラックとテーブルエクステンションを接続します

最大 9 つの 24 チャンネルエクステンション (MCXDEXT、MCXEXT) を MCX ラックまたはテーブルステーションに接続できます。これにより、ユーザーは最大 248 チャンネルを介して通信できます。

拡張を MCX *ラックまたはテーブルステーションに接続するには、MCX *ラックまたはテーブルステーションのポートと MCX * EXT ラックまたはテーブル拡張のポートをネットワークケーブルと接続する必要があります。追加の拡張機能は、最後の拡張機能の後に **ダイジーチェーン** として接続されます。

次に、MCX *ラック&テーブルステーションのセットアップメニューで、接続メニューで正しい接続モードを設定して、内線が正しくアドレス指定されるようにする必要があります。拡張機能は、MCX *ラック&テーブルステーションの後に次の ID を持つ **ユーザー** を自動的に選択するようになりました。

手動で拡張機能に関連付けられた **ユーザー** の変更は、Green-GO Control ソフトウェアでのみ可能です。この変更は、設定の再読み込みでは無効になります。

イーサネット上の電源

PoE (Power over Ethernet) はエクステンションに適用されません。各エクステンションには独自の **外部 12V DC 電源** が必要です。

設定方法

MCX * EXT ラックまたはテーブル拡張の接続モードを設定する。

セットアップメニュー→接続→マスター接続

設定例

デバイスで現在使用されている設定ファイルを変更することはできません。ただし、**セットアップメニュー**で一時的/ローカルに変更を加えることができます。

独自の設定を作成または調整するには、**Green-GO コントロールソフトウェア**を使用する必要があります。

最も重要な設定ポイントについては、以下で詳しく説明します。設定オプションの完全な概要については、「**セットアップメニュー**」の章を参照してください。

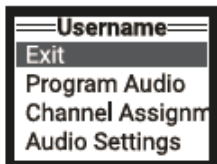
これらの設定は再起動後も存続しますが、対応する値が設定ファイルで定義されている場合、新しい設定ファイルを受け取ってロードしたとき、または別のユーザーがリンクされたときには、上書きされます。

ユーザーを読み込んで変更する

Green-GO MCX *ラックおよびテーブルステーションは、常に**ユーザー**にリンクする必要があります。**ユーザー**を設定することにより設定ファイルに保存されているすべての**ユーザー設定チャンネル**と**プロフィール**がデバイスに保存されます。

目的の**ユーザー**は、[ユーザーの設定]メニューエントリからロードできます。

ユーザーが PIN コードを設定している場合、これはロードする前に要求されます。



現在デバイスにリンクされている**ユーザー**は、**アンサー機能のセットアップメニュー**のタイトルの中央に配置されます。



設定方法

リンクされたユーザーを切り替える

セットアップメニュー→ユーザー設定

チャンネルの割り当てと設定の変更

チャンネルの割り当てと設定は、[チャンネルの割り当て]メニュー項目を使用して設定できます。このメニューから、32 チャンネルのすべての設定にアクセスできます。

リストされているすべてのメニュー項目の説明は、「**セットアップメニュー**」の章にあります。

設定方法

チャンネル設定を調整する

セットアップメニュー→チャンネル割り当て[#チャンネル割り当て]→チャンネル 1-32

オーディオ設定の調整

マイクレベル、ノイズゲート、バイアス電圧をメニューで設定できます。Green-GO MCX *ラックおよびテーブルステーションでは、この機能により、ユーザーは 2 つのオーディオプロファイルを使用し、それらを切り替えることができます。

設定ファイルに保存されているものをロードすることも可能です。これにより、デバイスで繰り返し設定を簡単に複製できます。

オーディオプロファイル

アクティブなユーザーがオーディオプロファイルを設定している場合、設定がリロードされると、ローカルで作成された設定が上書きされます。

設定方法

オーディオ設定を設定する

セットアップメニュー→オーディオ設定

オーディオプロファイル設定を読み込む

セットアップメニュー→オーディオ設定→ロードプロファイル

複製と設定の読み込み

Green-GO エンジン は、ローカルネットワーク内の他のデバイスと常にステータス情報を交換します。デバイスは、[Clone Config]メニューで、ローカル構成とは異なる、使用され、使用可能なすべての設定ファイルを表示します。

適合しない設定ファイルは、対応するエントリのクリックエンコーダーをクリックしてロードできます。

ローカルネットワークに異なる設定がない場合、すべての入力はハイフンで表示されます。

デバイスの標準設定ファイルをロードするには、リストの最後にあるエントリ「工場出荷時のデフォルト」を選択する必要があります。

独自の設定ファイルを Green-GO コントロールソフトウェアで作成し、ネットワーク接続を介してデバイスまたはすべてのデバイスにロードできます。

設定方法

ネットワークからの設定ファイルのロード

セットアップメニュー→クローンコンフィグ

標準設定ファイルのロード

セットアップメニュー→クローンコンフィグ→ファクトリーデフォルト

プログラムトーンの設定

プログラムトーンは、別のパッシブチャンネルを備えた Green-GOエンジンによって送信されます。

グループは、常にソースとして設定する必要があります。

メニューエントリでは、基本ボリュームやダンピングなどの関連するすべての設定をアクティブな通信で設定できません。

設定方法

パッシブプログラムトーンチャンネルを設定する

セットアップメニュー→プログラムオーディオ

受動的なアナウンスチャンネルとエマージェンシーチャンネルを設定する

パッシブアナウンスとエマージェンシーチャンネルは Green-GO グループで送信されます。

ソースはチャンネル割り当てメニューで設定できます。

設定方法

パッシブアナウンスチャンネルを設定する

セットアップメニュー→チャンネル割り当て→宛先:

パッシブエマージェンシーチャンネルを設定する

セットアップメニュー→チャンネル割り当て→受取:

XLR3 ライン入出力設定

ライン入力

XLR3M ライン入力を使用して、Green-GO システムのグループを介して任意の数のユーザーに外部オーディオ信号を配信できます。

これは、たとえば、プログラムトーンをすべての参加者に送信する場合に便利です。

メニューには、画面の右側にオーディオ信号の現在のレベルが表示されます。

設定方法

グループのライン入力を設定する

セットアップメニュー→ライン入力/出力→ライン入力→グループ

ライン出力

Green-GO MCX *ラックまたはテーブルステーションの XLR3 ライン出力を介して、Green-GO グループのオーディオ信号を再生し、PA を介して例えば Green-GO システムからの一つのメッセージを再生することができます。

XLR3 ライン出力を介してデバイスにリンクされたユーザーの合計を再生もできるので、ユーザーは通信によりパワフルなスピーカーを使用できます。

設定方法

XLR3 ライン出力を介してグループを再生

セットアップメニュー→ライン入力/出力→ライン出力→グループ

XLR3 ライン出力を介してデバイスにリンクされているすべてのユーザーを一緒にする

セットアップメニュー→ライン入力/出力→ライン出力→メインミックス出力

GPIO 設定

GPIO (汎用入出力) D-Sub 9 接続を使用すると、外部リレーを介して Green-GO エンジンのすべての機能を切り替えることができます。

背面の D-Sub 9 コネクタには 2 つの入力と出力があり、次のように割り当てられています。



Pin 1: + 5 V

Pin 2: Input 1

Pin 3: Input 2

Pin 4: Output 1 +

Pin 5: Output 2 +

Pin 6: Erde 1

Pin 7: Erde 2

Pin 8: Output 1 -

Pin 9: Output 2 -

Erde: 接地

GP 入力

汎用入力により、MCX *ラックまたはテーブルステーションのローカルアクションをさまざまな通信モード(トーク、リッスン、コール、キュー)でトリガーできます。

たとえば、フットスイッチで特定のチャンネルへの音声接続を開いたり、カメラの CCU を介して別のチャンネルを開いたりすることができます。

設定方法

GP 入力の Green-GO 機能を設定する

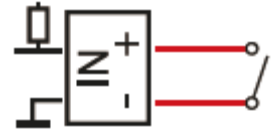
セットアップメニュー→GP 入力/出力→入力 1/2→Func

機能オプションを設定する

セットアップメニュー→GP 入力/出力→入力 1/2→オプション

GP 入力は、クローズまたはオープンを標準として設定できます。デフォルトで開いているリレーは、接点が閉じているときに設定されたアクションをトリガーします。

汎用入力はアースへの接点で閉じられ、+ 5 V で操作できます。



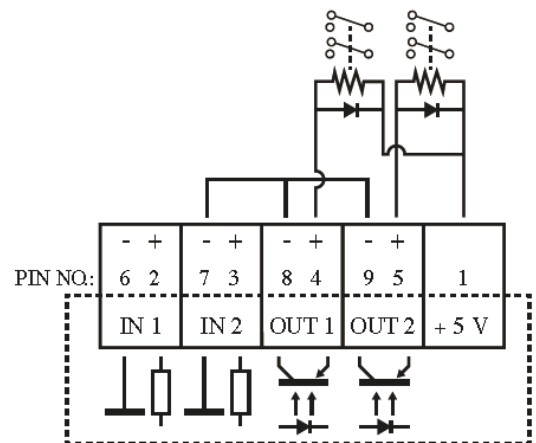
GP 出力

汎用出力を使用すると、デバイス/ユーザーに向けられた通信信号(トーク、リッスン、コール、キュー)を外部リレーのトリガーとして使用できます。

たとえば、着信音声接続を外部デバイスに表示することができます。



GP 出力は、最大 5 mA および 50 V 用に設計されたフォトカプラです。



設定方法

GP 出力のアクションを設定する

セットアップメニュー→GP 入力/出力→出力 1/2→Func

リモートの Green-GO Network BridgeX への接続を確立する

Green-GO MCX *ラックまたはテーブルステーションを、外部ネットワークまたはパブリックネットワークを介して Green-GO ネットワーク BridgeX に接続することができます。以下では、Green-GO ネットワーク BridgeX がユーザーモードで正しく設定され、着信接続を待機していると想定しています。Green-GO ネットワーク BridgeX の設定の詳細については、対応するマニュアルを参照するか、サポートに連絡してください。

Green-GO MCX *ラックまたはテーブルステーションをリモートの Green-GO ネットワーク BridgeX に接続するには、次の情報が必要です。

1. Green-GO ネットワーク BridgeX のパブリック IP アドレス。
2. Green-GO ネットワーク BridgeX のユーザーポート/ストリームの UDP ポートとパスワード。
3. ローカルネットワーク設定 (IP、サブネットマスク、ゲートウェイ) または正しく設定された DHCP サーバー。

接続メニューのセットアップメニュー→接続→リモート接続で設定します。パブリック IP アドレス、UDP ポート、およびパスワードをここに入力できます。接続が不十分な場合は、オプションとRecvBuf を試してみる価値があります。

設定方法

DHCP により自動的にネットワーク設定を行う

セットアップメニュー→ネットワーク→動的:オン

手動でネットワーク設定する

セットアップメニュー→ネットワーク→動的:オフ

設定をリセットする

Green-GO MCX *ラックまたはテーブルステーションをリセットするには、2 つの方法があります。

ソフトリセット

デバイスは、メニュー項目[すべての設定をリセット]セットアップメニュー→[情報]→[すべての設定をリセット]でリセットできます。ローカルおよび一時的な変更はすべて、設定ファイルの値またはデフォルト設定によって上書きされます。ソフトリセットでは、最後のアクティブな設定ファイルが保持されます。

ハードリセット

デバイスを完全にリセットするには、デバイスを強制起動モードで起動する必要があります。これを行うには、Green-GO MCX *ラックまたはテーブルステーションで、デバイスを起動するときにクリックエンコーダーを押し続ける必要があります。上部ディスプレイには、ディスプレイに強制された Green-GO boot 1.5 が表示されます。

クリックエンコーダーをもう一度押すと、30 秒のカウントダウンが開始され、最後にデバイスが完全にデフォルト設定にリセットされます。

セットアップメニュー

セットアップメニューは、[セットアップメニュー](#)の章で説明されているように、ナビゲートできます。サブメニューは「終了」、「キャンセル」、または「保存」というエントリでいつでも終了できます。

[セキュリティ](#)プロファイルの設定が許可されている場合、ユーザーはセットアップメニューでデバイスと設定ファイルのすべての項目を調整できます。デバイスにリンクされているユーザーに対して制限的な設定がアクティブな場合、ユーザーは Tech Pin コードの入力を要求されます。

追加情報

セキュリティプロファイルの詳細については「[接続:セキュリティプロファイル](#)」の章を参照してください。

プログラムオーディオ

プログラムトーンのパッシブチャンネルの設定メニュー。

ここで、ユーザーはロードされた設定からなる任意の **Green-GO グループ** をプログラムトーンのソースとして定義できます。音量を調整してプログラムトーンを弱めることもできます。

- **Src**

ここで、ユーザーはロードされた設定からなる任意の **Green-GO グループ** をプログラムトーンのソースとして定義できます。

デフォルト **なし**

- **Vol**

ここで、ユーザーは送信される**プログラムトーン**の音量を設定できます。

デフォルト: **0dB**

- **Vol**

ここで、ユーザーは送信される**プログラムトーン**の音量を設定できます。

デフォルト: **0dB**

設定範囲: ミュート、**-36dB**+ **12dB** (1dB ステップ)

- **Dim**

この設定により、ユーザーは**プログラムトーン**をチャンネルアクティビティに対して減衰させるかどうか、およびその程度を定義できます。

デフォルト: **-6dB**

設定範囲: ミュート、**-24dB**+ **-0dB** (3dB ステップ)

チャンネル割り当て

このメニューでは、デバイスにリンクされているユーザーのチャンネル設定を変更できます。ユーザーはすべてのチャンネル設定を調整および変更できます。

- **チャンネル 1-チャンネル 32**

対応するチャンネルのターゲットをここで選択できます。ターゲットがすでにチャンネルに定義されている場合、これはチャンネル ID の後ろに表示されます。

チャンネル 1-チャンネル 32 のチャンネル設定

- **ID**

チャンネル ID。設定されている場合、対応するユーザーまたは**グループ**の名前もここに表示されます。

デフォルト **なし**

ID オプションの説明

・グループ

ロードされた設定内のすべてのグループのリスト。

ユーザーはここでチャンネルの任意のターゲットを選択できます。

・ユーザー

ロードされた設定内のすべてのユーザーのリスト。

ユーザーはここでチャンネルの任意のターゲットを選択できます。

・無し

チャンネルにはターゲットが定義されていないため、機能はありません。

・ラベルの設定

ここで、ユーザーはチャンネルのエイリアスを定義できます。このエイリアスは、ディスプレイのチャンネル名として、名前の前に 'が表示されます。

設定に保存されているすべてのユーザーおよびグループを選択できます。

デフォルトなし

ラベル設定オプションの説明

・グループ

ロードされた設定内のすべてのグループのリスト。

・ユーザー

ロードされた設定内のすべてのユーザーのリスト。

・無し

このチャンネルには宛先が定義されていないため、ラベルはありません。

・トーク

ここでは、ユーザーがチャンネルを操作できるかどうか、およびその方法を設定できます。無効、ラッチ、モーメントタリー、ラッチ/モーメントタリーの 4 つのオプションが利用可能です。

デフォルト: ラッチ/モーメントタリー

設定範囲: 無効、ラッチ、モーメントタリー、ラッチ/モーメントタリー

トークオプションの説明

・無効

ユーザーは、設定された宛先への音声接続を開くことができません。

・ラッチ

ユーザーは、対応するファンクションキーを押すだけで、設定されたターゲットへの音声接続のためにチャンネルを永続的に開くことができます。もう一度押すと接続が閉じます。

・一時的

設定された宛先への音声接続を開くには、対応するファンクションキーを永続的に保持する必要があります。

・ラッチ/モーメンタリー

ラッチとモーメンタリーの 2 つのモードの組み合わせ。ユーザーは、対応するファンクションキーを短く押すか、押し続けると、対応するモードを操作できます。

・リッスン

このオプションは、チャンネルがミュートされるかどうかを決定します。

デフォルト: **オン**

設定範囲: **オフ、オン**

・ボリューム

チャンネルの音量。

デフォルト: **0dB**

設定範囲: **オフ、-36dB - +12dB (1dB ステップ)**

・優先度

チャンネルの優先度。各チャンネルは、[チャンネルの割り当て]メニューで 3 つの優先順位(低、標準、高)のいずれかを使用して設定できます。

デフォルト: **標準**

設定範囲: **低、標準、高**

優先度オプションの説明

チャンネルの優先度は、通信がミュート、減衰、または通常の音量で送信されるかどうかを決定します。優先順位の高いチャンネルで通信信号を受信すると、優先順位の低いチャンネルのすべての通信は、設定に応じて減衰またはミュートされます。

通信が減衰する程度は、**オプション**メニューで調整できます。

・コール センド

ここでは、ユーザーがこのチャンネルで**コールサイン**を送信できるかどうかを設定できます。

デフォルト: **有効**

設定範囲: **有効、無効**

・コール レシーブ

ここでは、ユーザーがこのチャンネルで**コールサイン**を受信できるかどうかを設定できます。

デフォルト: **有効**

設定範囲: **有効、無効**

・バンドワイドス

ここでは、ローカルの **Green-GO エンジン**が音声信号を送信する際のオーディオ

品質を設定できます。ノーマルの送信は約 7 kHz / 16 ビットで、エンハンスでは約 14 kHz / 16 ビットのオーディオ帯域幅まで拡張できます。

デフォルト: **ノーマル**

設定範囲: **ノーマル、エンハンス**

- An

ここでは、パッシブチャンネルアナウンスのソースグループを選択できます。

デフォルト:なし

- Em

ここでは、パッシブチャンネルエマージェンシーのソースグループを選択できます。

デフォルト:なし

オーディオ設定

ここでは、リンクされたユーザーのオーディオ設定を見つけて調整できます。

- プロファイルのロード

設定ファイルに保存されているオーディオプロファイルはここにロードできます。

デフォルト:なし

- SideT

リスニング機能の音量。

デフォルト:0dB

設定範囲:ミュート、-24dB-0dB (1dB ステップ)

- オートゲイン

入力信号の自動ゲイン設定。

デフォルト:中速

設定範囲:オフ、低速、中速、高速

- MaxG/ゲイン

オートゲイン機能がアクティブなときの最大ゲイン、または入力信号の一般的なゲイン。

デフォルト:50dB

設定範囲:+ 30dB→+ 60dB (1dB ステップ)

- スレッシュホールド

ノイズゲート。信号が送信される入力レベルを決定します。

デフォルト:-35dB

設定範囲:オフ、-45dB→-20dB (5dB ステップ)

- ホールド

起動後にノイズゲートを開いたままにしておく時間。

デフォルト:Fast

設定範囲:XLong-Fast

- バイアス

2.5V の電圧供給を XLR4M コネクタに切り替え、可能な場合は 10.0V を XLR3F フロントマイクコネクタに切り替えます。

デフォルト:オフ

設定範囲:オフ、オン

• In

オーディオソース。ここでは、対応する接続がデバイスで利用可能であれば、ユーザーはさまざまなソースから選択できます。

デフォルト: ヘッドセット

設定範囲: ライン入力、フロントマイク、ヘッドセット、テストトーン 125Hz-4kHz

オプション

一般的なユーザー関連のオプションはここにあります。

• アクティブ時間

ユーザーが着信通信信号に応答する時間の秒数。この設定は、対応するファンクションキーまたはステータス LED が着信を表示する時間も決定します。

デフォルト: 5.0 秒

設定範囲: 0.5s-45s

• アイソレート

アクティブな場合、アクティブな通話は他の通信から分離されます。ユーザーが話さないチャンネルはミュートされます。

デフォルト: オフ

設定範囲: オフ、オン

• ブザー

アクティブな場合、内部スピーカーがアラーム信号に使用されます。この機能は現在、BPX または WBPX デバイスでのみ有効です。

デフォルト: オフ

設定範囲: オフ、オン

• トーン

すべてのアラーム信号の音量。

デフォルト: -12dB

設定範囲: オフ、-49dB-0dB

• トークでリッスン

ユーザーがアクティブに話すとすぐに、ミュートされたチャンネルをアクティブにします。

デフォルト: オフ

設定範囲: オフ、オン

• アンサー

ユーザーが機能との通信信号に応答できるかどうかを指定します。

デフォルト: 有効

設定範囲: 有効、無効

• ポップアップ

ユーザーに、ポップアップを表示するか、およびどのポップアップを表示するかを定義します。

デフォルト: なし

設定範囲: オフ、キュー、キュー+ダイレクト、すべて

・優先度を下げる

優先度の高いチャンネルがアクティブな場合に減衰させる必要があるチャンネル通信の量を決定します。

デフォルト: -6dB

設定範囲: ミュート、-24dB-0dB (1dB ステップ)

設定方法

チャンネルの優先度は、チャンネル割り当てメニューで調整できます。

・直接優先度

2人のユーザー間の直接会話の優先度。

デフォルト: 通常

設定範囲: 通常、オートトーク、無視

・直接ボリューム

2人のユーザー間の直接通話のボリューム。

デフォルト: +12dB

設定範囲: ミュート、-36dB+12dB

・オートトーク

アクティブな場合、設定されたユーザー入力のオーディオ信号は、ここで設定されたチャンネル(ID)に自動的に送信されます。

デフォルト: オフ

設定範囲: オフ、チャンネル ID 1~32

・キューモード

ここでは、デバイスが着信光信号を処理する方法を設定できます。

デフォルト: 通常

設定範囲: 通常、オートトーク、無視

・出力キュータイム

発信ゴー信号(光信号)がアクティブに維持される期間。

デフォルト: 5 秒

設定範囲: オフ, 0.5s, 1s, 2s, 3s, 5s, 3s, 12s, 15s, 20s, 25s, 30s, 45s, 60s

ラインイン/アウト

このメニューでは、XLR3 ライン入力およびライン出力接続を設定できます。

これらの設定は、工場出荷時設定では設定されていません！

・ライン入力

XLR3F のアサインはここで設定できます。

ライン入出力オプション設定

・グループ

XLR3M ライン出力を介してオーディオ信号を送信するための **Green-GO グループ**。

デフォルト: なし

・オートゲイン

XLR3F ライン入力からの入力信号の自動ゲイン。

デフォルト: オフ

設定範囲: Off、Fast、Medium、Slow

・MaxG /ゲイン

AutoGain オプションがアクティブな場合、ゲインの制限をここで設定できます。それ以外の場合、このオプションは通常のゲインとして設定します。

デフォルト: + 11dB

設定範囲: -9dB → + 31dB (1dB ステップ)

・スレッシュホールド

ノイズゲート。信号が送信される最小レベルを決定します。デフォルト

ト: -35dB

設定範囲: オフ、-45dB、-20dB (5dB ステップ)

このオプションの設定が高すぎると、送信されたオーディオ信号の音が途切れる場合があります。

・ホールド

起動後にノイズゲートを開いたままにしておく時間。

デフォルト: Fast

設定範囲: Off、XLong、Long、Medium、Fast

・バンドウィズ

伝送品質を定義します: 標準 (7kHz)、拡張 (14kHz)

デフォルト: ノーマル

設定範囲: ノーマル、エンハンス

・ライン出力

XLR3M ライン出力のソースはここで設定できます。

ライン出力オプション設定

・グループ

XLR3M ライン出力を介してオーディオ信号を送信するための **Green-GO グループ**。

デフォルト: なし

・出力

ライン出力の音量。

デフォルト: 0dB

設定範囲: ミュート、-42dB → -24dB (3dB ステップ)、-24dB → 6dB (1dB ステップ)

・ループバック

XLR3F ライン入力の入力信号を XLR3M ライン出力に送信します。

デフォルト: オフ

設定範囲: オフ、-42dB--24dB (3dB ステップ)、-24dB--+ 6dB (1dB ステップ)

・メインミックス出力

デバイスにリンクされているユーザーのオーディオ合計を XLR3M ライン出力にミックスします。

デフォルト: ミュート

設定範囲: ミュート、-48dB--30dB (3dB ステップ)、-30dB-0dB (1dB ステップ)

GP 入力/出力

デバイスの利用可能な汎用入力および出力の設定メニュー。各 D-Sub 9 接続には、2 つの入力と 2 つの出力があります。

これらの設定は、工場出荷時設定では設定されていません！

・GP 入力

GPIO 接続の 2 つの入力は、このメニューで設定できます。

GP 入力オプション設定

・Func

これは、GP 入力が Green-GO エンジンでトリガーする機能を定義します。GP 入力は、Green-GO エンジンの任意の通信モード(通話、コールサイン、またはキュー信号)で信号に応答して送信できます。

デフォルト: なし

設定範囲: なし、トーク、通話、キュー

Func オプションの説明

トーク

着信通信信号に応答するか、またはデバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルへの通話を開始できます。

オプション領域: アンサー、チャンネル 1-チャンネル 32

コール

デバイスにリンクされているユーザーの特定のチャンネルにコールサインを送信します。

オプション領域: チャンネル 1-チャンネル 32

Cue

アテンション信号の着信を確認できます。また、デバイスにリンクされているユーザーのチャンネルに任意のキュー信号(アテンション、ホールド、ゴー)を送信することもできます。

オプション: 確認、アテンションチャンネル 1 を送信-アテンションチャンネル 32 を送信、ホールドチャンネル 1 を送信-ホールドチャンネル 32 を送信、ゴーチャンネル 1 を送信-ゴーチャンネル 32 を送信

・オプション

アクティブな機能(Func)に応じて、この設定にはさまざまなオプションがあり、Green-GO エンジンが実行するアクションを決定できます。

デフォルト: なし

設定範囲: なし。(ファンクション:トーク)アンサー、チャンネル 1-チャンネル 32; (ファンクション:コール)チャンネル 1 - チャンネル 32; (ファンクション:キュー)確認、アテンションチャンネル1 を送信-アテンションチャンネル 32 を送信、ホールドチャンネル 1 を送信、ホールドチャンネル 32 を送信、ゴーチャンネル1 を送信-ゴーチャンネル 32 を送信

オプション

オプションの説明(ファンクション:トーク)

Func 設定メニューで Call 機能が選択されている場合、ユーザーは次の設定オプションを使用できます。

アンサー

このオプションを使用すると、すべての着信通信信号(通話、コールサイン)に対応するチャンネルへの音声接続で応答できます。

チャンネル 1-チャンネル 32

これらのオプションは、デバイスにリンクされているユーザーの選択されたチャンネルへのコールサインを可能にします。

オプションの説明(ファンクション:コール)

Func 設定メニューでファンクション コールが選択されている場合、ユーザーは次の設定オプションを使用できます。

チャンネル 1-チャンネル 32

これらのオプションは、デバイスにリンクされているユーザーの選択されたチャンネルへのコールサインを可能にします。

オプションの説明(ファンクション:キュー)

設定メニューでファンクションキューが選択されている場合、ユーザーは次の設定オプションを使用できます。

アクナレジ

このオプションを使用すると、すべてのキュー信号にホールド信号で応答できます。

アテンション Chn 1-Chn 32 の送信

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの選択したチャンネルにアテンション信号が送信されます。

ホールド Chn 1-Chn 32 の送信

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされたユーザーの選択されたチャンネルにホールド信号を送信します。

ゴー Chn 1-Chn 32 の送信

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされたユーザーの選択したチャンネルにゴー信号を送信します。

・ノーマリーオープン/ノーマリークローズ

ここでは、Green-GO エンジンが設定されたアクションを切り替える方法とタイ

ミングを設定できます。ノーマルオープンオプションでは、アースへの接点(ピン 6 と 7)が閉じるとすぐに、設定されたアクションが実行されます。

デフォルト:ノーマリーオープン

設定範囲:ノーマリーオープン、ノーマリークローズ

・GP 出力

GPIO 接続の 2 つの入力は、このメニューで設定できます。

GP 出力アクション設定

・Func

ここでは、Green-GO エンジンのどの機能が GP-出力をトリガーするかを定義します。

GP-出力は、Green-GO エンジンの任意の通信モード(通話、コールサイン、ライトサイン)からの信号によってトリガーできます。

デフォルト:なし

設定範囲:なし、アクティブ、コール、キューレシーブ、トーク

Func オプションの説明

・アクティブ

GP -出力のトリガーは、デバイスにリンクされているユーザーのすべてまたは特定のチャンネルのいずれかでの着信です。

オプション領域:任意のチャンネル、チャンネル 1-チャンネル 32

・コール

任意のチャンネルの着信コールサイン。

オプション領域:任意のチャンネル、チャンネル 1-チャンネル 32

・キューレシーブ

この機能は、特定のライトサイン(アテンション、ホールド、ゴー)を受信したとき、または 2 つの特定の

ライトサインアテンション ホールド、アテンションアンドゴーなどに反応したときにトリガーできます。異なる信号は、連続信号または脈動(点滅)信号として送信されます。

オプション領域:ホールド、ホールドブリンク、アテンション、アテンションブリンク、ゴー、ゴーブリンク、ホールド/アテンションブリンク、ホールドブリンク/アテンション、ホールド/ゴー、アテンション/ゴー

・トーク

この機能は、いずれかのチャンネルへの音声接続が開いているときに切り替わります。

オプション領域:任意のチャンネル、チャンネル 1-チャンネル 32

・オプション

アクティブな機能(Func)に応じて、この設定にはさまざまなオプションがあり、選択した通信モードのどのアクションがそれをトリガーするかを決定できます。

デフォルト:なし

オプション範囲:なし。;(機能:アクティブ): 任意のチャンネル1 - チャンネル32;(機能:コール): 任意のチャンネル、チャンネル1 - チャンネル32;(機能:キューレシーブ): ホールド、ホールドブリンク、アテンション、アテンションブリンク、ゴー、ゴーブリンク、ホールド/アテンションブリンク、ホールドブリンク/アテンション、ホールド/ゴー、アテンション/ゴー;(機能:トーク) 任意のチャンネル, チャンネル1 - チャンネル32

オプション-オプションの説明

オプションの説明(ファンクション::アクティブ)

Func 設定メニューでアクティブ機能が選択されている場合、ユーザーには次の設定オプションがあります。

・任意のチャンネル

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの設定済みチャンネル上のすべての着信コールが GP-出力をトリガーします。

・チャンネル 1-チャンネル 32

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされたユーザーの選択されたチャンネルでの着信が GP-出力をトリガーします。

オプションの説明(ファンクション:呼び出し)

Func 設定メニューでコール機能が選択されている場合、ユーザーは次の設定オプションを使用できます。

・任意のチャンネル

このオプションを使用すると、すべての着信通信信号(通話、コールサイン)に対応するチャンネルへの音声接続で応答できます。

・チャンネル 1-チャンネル 32

これらのオプションは、デバイスにリンクされているユーザーの選択したチャンネルへの音声接続します。

オプションの説明(ファンクション:キューレシーブ)

Func 設定メニューで機能が選択されている場合、ユーザーは次の設定オプションを使用できます。

・ホールド

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルの着信ホールド信号によってGP-出力がトリガーされます。信号の持続時間中、対応する GP-出力が切り替えられます。

・ホールドブリンク

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされたユーザーの任意のチャンネルの着信ホールド信号によってGP-出力がトリガーされます。信号の持続時間中、対応する GP-出力はオンとオフに切り替わります。

・アテンション

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルの着信アテンション信号によって GP 出力がトリガーされます。信号の持続時間中、対応する GP 出力が切り替えられます。

・アテンションブリンク

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされたユーザーの任意のチャンネルの着信アテンション信号によって GP 出力がトリガーされます。信号の持続時間中、対応する GP 出力はオンとオフに切り替わります。

・ゴー

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルの着信ゴー信号によって GP 出力がトリガーされます。信号の持続時間中、対応する GP 出力が切り替えられます。

・ゴー・ブリンク

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルのゴー信号によって GP 出力がトリガーされます。信号の持続時間中、対応する GP 出力はオンとオフに切り替わります。

・ホールド/アテンション・ブリンク

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルの異なる入力信号によって GP 出力が 2 回トリガーされます。

a.ホールド信号は、信号の持続時間中に対応する GP 出力を切り替えます。

b.対応する GP 出力は、アテンション信号によって信号の持続時間の間オン/オフに切り替えられます。

・ホールド・ブリンク/アテンション

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルの異なる入力信号によって GP 出力が 2 回トリガーされます。

a.対応する GP 出力は、入力されたホールド信号によって信号の持続時間中はオンとオフが切り替わります。

b.対応する GP 出力は、アテンション信号によって信号の持続時間中に切り替えられます。

・ホールド / ゴー

このオプションを使用すると、GP 出力は、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルの異なる入力信号によって 2 回トリガーされます。

a.着信ホールド信号は、信号の持続時間中に対応する GP 出力を切り替えます。

b.対応する GP 出力は、入力ゴー信号によって信号の持続時間中に切り替えられます。

・アテンション / ゴー

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルの異なる入力信号によって GP 出力が 2 回トリガーされます。

a.対応する GP 出力は、アテンション信号によって信号の持続時間中に切り替えられます。

b.対応する GP 出力は、ゴー信号によって信号の持続時間中に切り替えられます。

オプションの説明(ファンクション:トーク)

Func 設定メニューでトーク機能が選択されている場合、ユーザーは次の設定オプションを使用できます。

• 任意のチャンネル

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされたユーザーが通話のすべてのチャンネルがGP出力をトリガーします。

• チャンネル1-チャンネル32

このオプションを使用すると、デバイスが通話のために設定されたチャンネルを開くと、GP 出力がトリガーされます。

• ノーマリーオープン/ノーマリークローズ

ここでは、設定された条件が満たされた場合に GP 出力を切り替える方法を設定できます。ノーマルオープンオプションでは、+5V(ピン 1)に対する接点が閉じます。

デフォルト:ノーマルオープン

設定領域:ノーマリーオープン、ノーマリークローズ

• テスト

この機能により、設定された条件を満たさなくても、外部リレーをテストできます。

デフォルト:なし

設定領域:なし, クローズ, オープン

追加情報

詳細については、デバイスのドキュメントの **GPIO 設定**の章を参照してください。

ユーザー設定

このメニューでは、デバイスにリンクされているユーザーを選択または変更できます。

• ID

ユーザーID とユーザー名がここに表示されます。

デフォルト:なし

接続

接続タイプを定義します。このサブメニューには、現在の接続モードと関連する設定項目が表示されます。モードを変更するには、現在アクティブなモードを選択する必要があります。

• ローカル接続

これは、Green-GO デバイスがローカルネットワークで通信する通常の接続タイプです。

このタイプの接続は出荷時設定でアクティブになっています！

・ マスター接続

MCX *ラックまたはテーブルステーションを少なくとも 1 つの MCX * EXT ラックまたはテーブルエクステンションで使用する場合は、接続タイプ: マスター**接続**を使用する必要があります。

注意事項

LAN 2 に接続できるのは、MCX * EXT ラックまたはテーブルエクステンションのみです。

他のデバイスはローカルネットワークと正しく通信できなくなります。

・ リモート接続

このタイプの接続では、ユーザーはリモートの Green-GO Network BridgeX への接続を確立できます。

オプションの説明

・ パスワード

Green-GO Network BridgeX ポート/ストリームのパスワードをここに入力する必要があります。

デフォルト: :なし

・ パスワードを生成

このオプションを使用すると、ランダムなパスワードを生成できます。

デフォルト: :なし

・ リモートポート

リモート Green-GO Network BridgeX ポート/ストリームの UDP ポート。

デフォルト: :なし

・ リモート IP

リモートの Green-GO Network BridgeX のパブリック IP。

デフォルト: :なし

・ バックアップ

この設定は、緊急時の接続続の IP アドレスを定義します。

デフォルト: :なし

・ SndBuf

レイテンシを補正するためのバッファ。

デフォルト: :なし

・ RcvBuf

レイテンシを補正するためのバッファ。

デフォルト: :なし

クローン設定

ネットワークからの他の Green-GO デバイスの設定は、このメニューにロードできます。このメニューのタイトルには、現在使用中の設定ファイルのファイル名が表示されます。

異なるコンフィグが存在する場合、ローカルで使用されている設定ファイルとは異なるエントリーが Exit エントリーの下に表示されます。このメニューの最後に、出荷時のデフォルトオプションが表示され、配信ステータスの標準設定をロードできます。

・設定ファイル名

このメニューには、ローカルネットワークで見つかった、ローカルで使用されているものとは異なるすべての設定ファイルが表示されます。異なる設定ファイルが見つからない場合は、ハイフンのみが表示されます。エントリーを確認すると、タイムスタンプと設定ファイルのソースが表示される別のメニューが呼び出されます。

・工場出荷時の設定

ユーザーが出荷時設定の設定ファイルをロードできるようにします。

デバイスオプション

デバイス固有の設定はここにあります。

・バックライト

タッチスクリーンのバックライトのタイムアウト。

デフォルト: **10m**

設定範囲: 10s、30s、1m、10m、30m、1h、2h

・画面の輝度

タッチスクリーンの輝度設定。

デフォルト: **6**

設定範囲: 低、**2-7**、高

・LED の輝度

ファンクションキーの LED バックライトの輝度設定。

デフォルト: **6**

設定範囲: 低、**2-7**、高

・LEDs

タイマー付きのファンクションキーのバックライトをオプションから外すか、または常にオンのままにするかを設定します。

デフォルト: 常にオン

設定範囲: 常時オン、常時オフ

・スピーカー

内蔵 2 W スピーカーの音量。

デフォルト: **-12dB**

設定範囲: ミュート、**-48dB - 0dB** (1dB ステップ)

・ヘッドセット

XLR4M に接続されているヘッドセットの音量。

デフォルト: **-12dB**

設定範囲: ミュート、**-48dB** - **0dB** (1dB ステップ)

• ChnBtn

ファンクションキートークの動作は、アクティブな通信モードに関係なく音声接続を開き、アクティブな通信モードに従い、対応する信号を送信します。

デフォルト: トーク

設定範囲: トーク、トーク/コール/キュー

• シフトページ

このオプションを使用すると、2 番目のシフトページをロックできます。

デフォルト: 有効

設定範囲: 有効、無効

ネットワーク

デバイスの EtherCON 接続の**ネットワーク設定**。ユーザーは、ダイナミックオンとダイナミックオフの 2 つの動作モードを選択できます。Dynamic On / Off メニュー項目をクリックすることにより、ユーザーはモードを切り替えることができます。

ダイナミックオフモードでは、EtherCON 接続の IP アドレスなどの追加の設定項目によってメニューが拡張されます。

• ダイナミックオン

このモードは、DHCP サーバー経由でネットワーク設定を取得しようとします。これが失敗した場合、デバイスは **RFC 3927**に従って、169.254.0.0 / 16 の範囲から IP アドレスを自分に割り当てます。

このモードは工場出荷時の設定でアクティブです！

• ダイナミックオフ

このモードは、**ネットワーク設定**を手動で設定するための設定項目を提供します。

オプションの説明

• IP アドレス

デバイスの IP アドレス。

標準を尊重してください！

ローカル/プライベートネットワークでの使用も意図されている IP アドレスの領域のみを使用してください。これらは RFC 1597 標準で定義されています。

ネットワークアドレス範囲	CIDR 表記	サブネットマスク	アドレス	クラス
10.0.0.0 bis 10.255.255.255	10.0.0.0/8	255.0.0.0	16.777.216	クラス A
172.16.0.0 bis 172.31.255.255	172.16.0.0/12	255.240.0.0	1.048.576	クラス B
192.168.0.0 bis 192.168.255.255	192.168.0.0/16	255.255.0.0	65.536	クラス C

・ ネットマスク

サブネットマスク。これにより、デバイスがローカルに通信できるネットワークアドレス範囲が決まります。

デフォルト: **255.255.0.0**

常に同じサブネットマスクを使用してください！

・ ゲートウェイ

デバイスが外部ネットワークアドレス範囲のルーターを介して通信できるゲートウェイのアドレス。この設定は、リモート接続でのみ必要です。

デフォルト: **0.0.0.0**

情報

このメニューには、すべての重要なデバイス設定が表示されます。

ほとんどのメニュー項目をクリックすると、このメニューを終了できます。

・ 名称

Green-GO ソフトウェアで設定されたデバイス名。

・ 設定

Green-GO ソフトウェアで設定されたデバイス名。

オプションの説明

・ FactDefault

ロードされた設定ファイルのファイル名。

・ 17h 28:38

設定ファイルが最後に変更された時刻。

・ 2018 年 11 月 29 日

設定ファイルが最後に変更された日付。

・アクセス保護

設定ファイルで[ブロックされた読み出し]設定がアクティブかどうかを示します。

この設定は、Green-GO Control ソフトウェアの Configuration Settings→Generic にあります。

ソフトウェアインスタンスがデバイスの設定をロードまたは変更するのを防ぐことができます。

・SN

デバイスのシリアル番号。

・MCX 4a61

ロードされているファームウェアを表示します。

・IP

デバイスの現在の IP アドレス。

・Mac

デバイスの MAC アドレス

・すべての設定のリセット

デバイスで行われたすべてのローカル設定または一時的な設定(ネットワーク設定、オーディオおよびチャンネル設定など)がリセットされます。

技術仕様

一般

	MCX ラックステーション	MCXD テーブルステーション
外形寸法 (H / W / D)	44mm x 483mm x 155mm	220mm x 155mm x 46mm
重量:	2.13 kg	1.13 kg
接続:	1 x Neutrik XLR4M、2 x Neutrik XLR3F、1 x Neutrik XLR3M、2 x Neutrik EtherCON、1x D-Sub 9 F、1 x 12 V DC 入力	
電源:	PoE(48V) オプションの外部12 V DC 電源	
消費電力:	Max:6.5W, Typ:5W	

オーディオ入力

測定されたレイテンシーは、常にマイク→ネットワーク→スピーカーからのものです。

	ヘッドセット接続	フロントマイク	ライン入力
接続:	Neutrik XLR4M(ピン 1 +2)	Neutrik XLR3F(前面)	Neutrik XLR3F(背面)
タイプ:	非対称	対称	対称
バイアス:	最大 +2.5 V	最大 +10 V	取り決めによる
レベル:	+30 dB--+70 dB	+24 dB--+64 dB	-9 dB--+ 31dB
限界レベル AGC:	-12 dBFS = +2 dBu		
ゲートスレッシュホールド:	オフ、-45 dB--+20 dB(5 dB ステップ)		
サイドトーン:	ミュート、-24 dB-0 dB(3 dB ステップ)		
バックグラウンドノイズ:	-70 dBu--+55 dBu		
待ち時間:	12 ms		
送信範囲 (デフォルト)	240~7000 Hz		
送信範囲 (拡張)	240~14000 Hz		

オーディオ出力

XLR4M ヘッドセット接続の音量は 0 dB のレベルで測定されました。データは、RMS 22 Hz-22 kHz に従って重み付けされていません。

デジタルオーディオ形式は、16/32 kHz のサンプルレートで線形 16 ビットです(標準/拡張オーディオ品質)。

	ヘッドセット接続	スピーカー	ライン出力
接続:	Neutrik XLR4M(ピン 3 +4)	取り決めによる	Neutrik XLR3F(背面)
公称出力レベル:	0 dBu	取り決めによる	0dBu
最大出力:	+20dBu	>2W	+12dBu
公称インピーダンス:	32-600 Ω	> 8 Ω	240 Ω

安全上の注意と証明書

注意

デバイスを湿気にさらさないでください。感電の恐れがあります！

- ・ CE 宣言
- ・ 安全上の注意(英語)

トラブルシューティング

デバイスがローカルネットワーク経由で他のデバイスと通信できません。

この不正行為にはいくつかの原因が考えられます。次のすべてが当てはまることを確認してください。

- **ネットワーク設定**は、すべての Green-GO デバイスで同一です。すべてのデバイスの情報メニューで、または **Green-GO アップデート接続ソフトウェア**を使用して、IP アドレスとサブネットマスクを確認します。
- すべてのデバイスが**同じ設定ファイル**を使用します。すべてのデバイスの情報メニューで、または **Green-GO コントロールソフトウェア**を介して、現在ロードされている設定ファイルを確認します。
- チャンネル割り当てメニューで対応するチャンネル設定を確認してください。トーク設定が無効に設定されている場合、音声接続用にチャンネルを開くことはできません。

設定された入力からの信号は途切れ途切れに転送されます。

独自のオーディオ信号が途切れ途切れに送信される場合は、オーディオ設定における閾値を確認する必要があります。

スレッシュホールドが高すぎると、マイク起動が間に合わない可能性があります。さらに、保留オプションでは、切り替え時間が短すぎると、マイクが早く終了してしまう可能性があります。

システムにエコーがあります。

Green-GO Control ソフトウェアを使用して、エコーを生成している参加者を確認し、オーディオ設定を調整します。音量(ボリューム)が高すぎると、低いスレッシュホールドでの状況によってはエコーが発生する可能性があります。

アプリケーションノート

アクティブな参加者は、緑色のフォント色を使用してデバイスリストから識別できます。対応するデバイスが選択されている場合、アクティブなチャンネルは、チャンネル番号の前にある緑色のボールを使用して識別でき、ダブルクリックしてミュートできます。

外部スピーカーを MCX *ラックまたはデスクステーションに接続できますか？

はい、オプション MainMixOutput を使用して、リンクされたすべてのユーザーをステーションの XLR3M ラインアウトに追加できます。グループがラインアウトに割り当てられていない場合、すべてのユーザーが排他的に転送されません。

設定方法

XLR3M ラインアウトを介してリンクされたすべてのユーザーを再生します。

設定メニュー→Line In / Out→Line Out→Main Mix Output

ボタンを使用してコールサインやライトサインを送信するにはどうすればよいですか？

ファームウェア 4a51 以降、この設定がメニューにあります。この動作をアクティブにしたい場合は、トーク /コール/ キューオプションを選択してください。

設定方法

ファンクションキーのアクションがアクティブな通信モードに従うようにします。

セットアップメニュー→デバイスオプション→ChnBtn

MCX * EXT ラックまたはテーブル拡張に黒い画面しか表示されません。

次のことを確認してください。

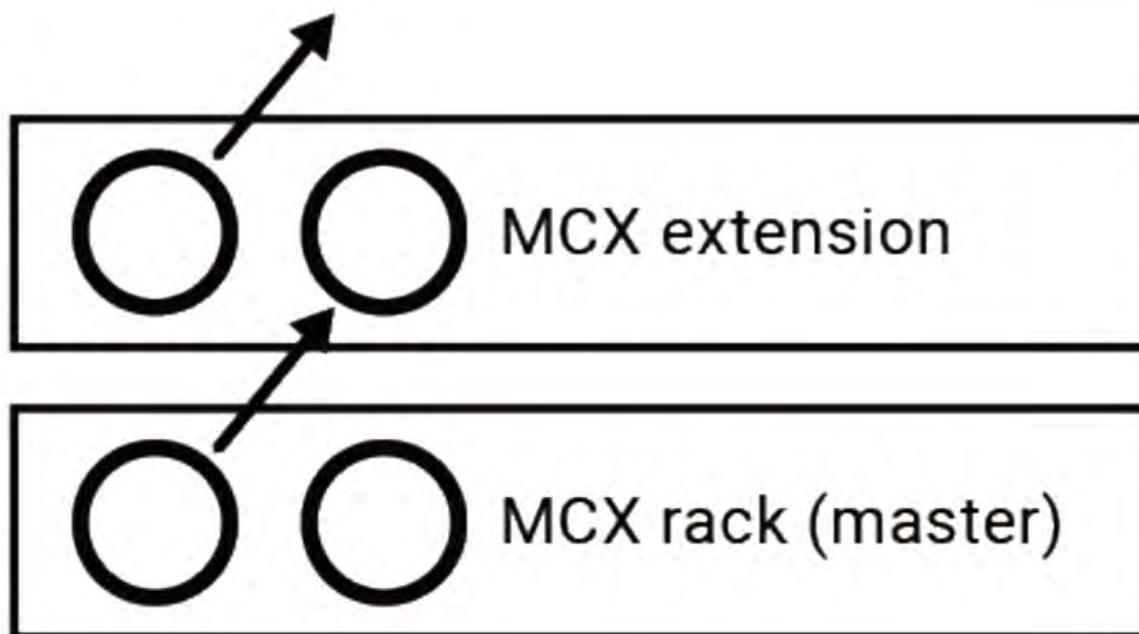
最初の MCX * EXT ラックまたはテーブル拡張は、MCX *ラックまたはテーブルステーションの LAN 2 ポートを介してポート LAN 1 に接続されています。

MCX *ラックまたはテーブルステーションには、4a51 以降のファームウェアがあります。

□MCX *ラックまたはテーブルステーションが正しい接続モードになっています。

セットアップメニュー[#das-setup-menu]→接続→マスター接続

□9 つ以上の MCX * EXT ラックまたはテーブルエクステンションが接続されています。



接続されている MCX *外部ラックまたはテーブル拡張が誤ったユーザーをロードします。

MCX * EXT のラックまたはテーブルの拡張機能は、設定を読み込んだ後、常に 1 つ上の ID を持つユーザーに自動的に割り当てられます。拡張機能では、ネットワークケーブルの順序が考慮されます。MCX(D) : Username (ID: n)

MCX(D) EXT 1: Username (ID: n+1)

MCX(D) EXT 2: Username (ID: n+1+1)

このエラーを修正または回避するために、設定ファイルで作成したユーザーの ID を変更してください。

MCX *ステーションの背後にあるデバイスが正しく機能していません。

MCX *ラックまたはテーブルステーションがマスター接続モードで操作されている場合、MCX * EXT ラックまたはチャンネルエクステンションのみが、MCX *ラックまたはテーブルステーションの LAN 2 EtherCON コネクタの後ろに接続できます。

1.各ステーションが拡張機能を使用し、スイッチに個別に配線されていることを確認してください！

2.MCX ステーションが拡張機能を使用しない場合は、接続モードをローカル接続に設定する必要があります。

フロントマイク、ディスプレイ(S) またはボタンが機能しません。

接続がボードに正しく取り付けられているかどうかを確認してください。前面のボタン、ディスプレイ、ポートは、リボンケーブルでメインボードに接続されています。このケーブルは、ボードのポート X2 に差し込まれている必要があります。

セットアップボタンが赤く点滅し、システムの他の部分との通信は可能です。

データフィードが MCX *ラックまたはテーブルステーションの LAN1 接続にあることを確認してください。

ファームウェアの更新は成功しませんでした。

ファームウェアの更新が正常に完了しなかった場合、プロセスを単純に繰り返すことができます。ファームウェアをインストールしてデバイスを損傷することはありません。すべての試行が失敗した場合は、デバイスを強制起動モードで起動し、Green-GO アップデート接続ソフトウェアを使用してファームウェアの転送を再試行します。

1. デバイスの電源を切ります。
2. 起動時にクリックエンコーダーを押し続けます。
3. ディスプレイに Green-GO 強制起動 1.x と表示されます。

注意

強制起動モードのデバイスは、常に DHCP ネットワーク設定(動的:オン)をアクティブ化しています。ネットワークに DHCP サーバーがない場合、デバイスは 169.254.0.0/16 の範囲から IP アドレスを自分に割り当てます。